

春の特別ラン展「世にも奇妙なラン」コーナーの展示について

島田有紀子・堀川大輔・磯部実
・濱谷修一

2020年2月22日から3月1日まで開催された春の特別ラン展では、「世にも奇妙なラン」と題し、大温室の空中デッキ（スロープ）において珍しいランや形が変わったラン、おもしろいエピソードを持つランなどを展示した。

目線の高さでランをじっくりと観賞することができるように、空中デッキの手すりに直径40cmの円形の板を取り付け、その上に直径37cmの鉢受皿を固定してランの鉢を展示した。その他、デッキのやや広いスペースを利用し、ココヤシ付近（図1の⑦）にはリカステ属を、ヒカゲヘゴ付近（図1の⑬）にはドラクラ属を展示し、タビビトノキ付近（図1の⑭⑮）にはランの香りを楽しむコーナーを設けた。リカステ属とドラクラ属の上には、葉焼けしないよう、ハウスパイプを立てて寒冷紗（遮光率70%）を張った。展示箇所は図1に示す計19か所で、それらのランにまつわるエピソードをイラスト付きのパネルで表示した（写真1、2、3）。

詳細は表のとおりである。

考察

リニューアルから2年後の大温室ではまだ高木が少なく、また窓があまり汚れていないために日差しが強く、葉焼けが心配であったが、日照を考慮してそれぞれのランを配置するとともに、必要に応じて遮光したことにより障害は見られなかった。また、毎朝夕霧吹きを行い、加えて晴天の乾燥する日には日中にも1回、キロキスタ属、タエニオフィルム属、ドラクラ属、バニラ属に霧吹きを行った。

レストレピア属やプレウロタリス属をはじめとする小型のランは盗難の恐れがあるため、鉢底を鉢受皿にガムテープで固定するなど処置をした。また、花の細部を見てもらえるようルーペを設置した。

来園者の声およびガイドボランティアの日記によると概ね好評であったように思われる。これまで、ランの原種や小型の珍しいランはフクシア温室の野生ランのコーナーや、展示温室で開催する季節の洋

ラン展では解説して展示したことがあるものの、大温室のような広いスペースでは、派手な交配種しか目に留めてもらえないことから、展示する機会がなかった。しかし、空中デッキにこのようなコーナーを点在させることで、通り過ぎがちな通路でも立ち止まってルーペで観察したり、香りを楽しんだり、解説に目を留めてもらうことができた。今後もこのような工夫を凝らした特別ラン展を開催したいと考える。

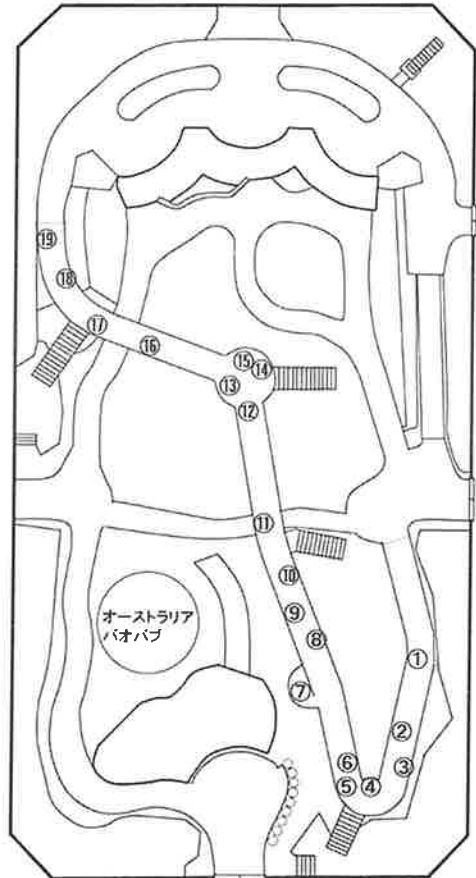


図1 空中デッキ上に設けた「世にも奇妙なラン」コーナー。数字はランの設置場所を示す。



写真1 リカステ属のコーナー

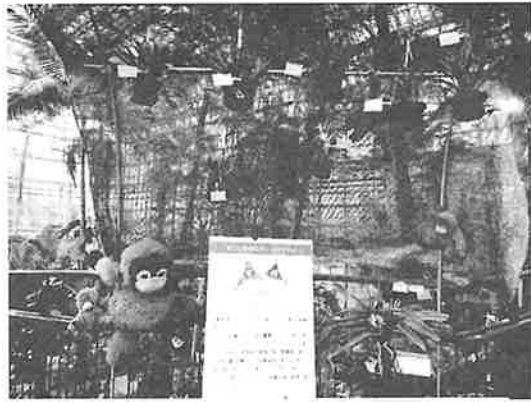


写真2 ランの香りを楽しむコーナー

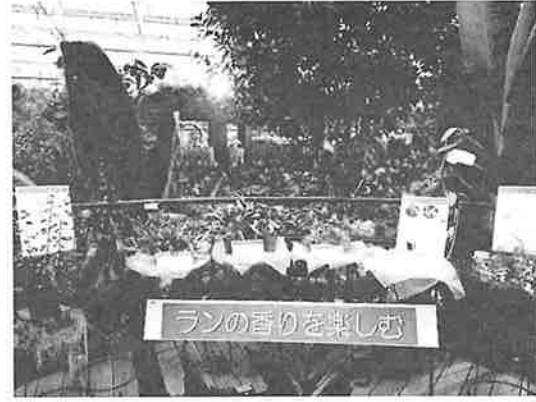


写真3 ドラクラ属(モンキーオーキッド)のコーナー

表 「世にも奇妙なラン」コーナーで展示したラン

展示場所	タイトル	ランの種類	見どころ、エピソード、展示の工夫など
①	エッチなラン	<i>Anacamptis morio</i> subsp. <i>longicornu</i> (<i>Orchis longicornu</i>) <i>Restrepia antennifera</i> <i>Restrepia brachypus</i>	アナカンプティスの開花株と、参考としてウチョウランの球根を展示。
②	虫みたいなラン	<i>Restrepia elegans</i> <i>Restrepia guttulata</i> <i>Restrepia</i> sp. <i>Pterostylis cruta</i>	径37cmの受け皿に5種を置いて展示。虫眼鏡を設置。
③	虫みたいなラン	<i>Pterostylis nutans</i> <i>Pterostylis tenuicauda</i> <i>Pterostylis tobeyana</i>	径37cmの受け皿に4種を置いて展示。オーストラリアの地生ランの受粉の仕組みを解説。
④	葉の上に咲くラン	<i>Acianthera pantasmoides</i> <i>Pleurothallis correllii</i> <i>Pleurothallis nuda</i> <i>Pleurothallis phymatodea</i> <i>Pleurothallis radula</i> <i>Pleurothallis</i> sp. <i>Stelis cocornaensis</i>	径37cmの受け皿に葉の上に咲く7種を置いて展示。ルーベを設置。
⑤	葉の上に咲くラン	<i>Acianthera luteora</i> (<i>Pleurothallis caespitosa</i>) <i>Pleurothallis geographica</i> <i>Pleurothallis matudana</i> <i>Pleurothallis nuda</i> <i>Pleurothallis scurrula</i> <i>Pleurothallis vidua</i>	径37cmの受け皿に葉の上に咲くラン5種を置いて展示。ルーベを設置。
⑥	小さすぎるラン	<i>Condylago rodrigoii</i> <i>Stelis papaquerensis</i> <i>Pleurothallis</i> sp. <i>Platystele</i> sp. <i>Pleurothallis</i> sp. <i>Trichosalpinx blaisdelli</i>	径37cmの受け皿に小さな小花をもつラン6種を置いて展示。ルーベを設置。
⑦	森の妖精	<i>Lycaste</i>	森の妖精の雰囲気演出しつつ、リカステ交配種に綿やラッピングペーパーをあしらえて展示。寒冷紗を施した。
⑧	令和という名のラン	<i>Lycaste skinneri</i> 'Reiwa'	万葉集に収録される「梅花の宴」の歌で詠まれた梅の花色をイメージし、当園で命名。
⑨	巨大なオンシジウム	<i>Oncidium Mayfair</i> 'Trinity'	種苗登録申請中の新品種。3弁花。
⑩	大きなラン	<i>Neomoorea walisii</i>	開花株を展示。
⑪	魅惑の黒花	<i>Fredclarkera</i> After Dark 'SVO Black Pearl' <i>Maxillaria schunkeana</i>	黒花2種を展示。
⑫	大きなラン	<i>Vandopsis gigantea</i>	開花株を展示。
⑬	まるでサル	<i>Dracula</i>	ドラクラ属の花を下から眺められるように頭上のパイプから鉢を吊り下げた。寒冷紗を設置。サルのぬいぐるみとともに装飾。
⑭	バニラはランの仲間	<i>Vanilla planifolia</i>	花芽をもった株を展示。穴をあけたペットボトルにバニラビーンズ入れ、香りを嗅げるようにした。
⑮	ランの香り	<i>Dendrochilum glumaceum</i> <i>Lycaste cruenta</i> <i>Maxillaria porphyrostele</i> <i>Oncidium Shalley</i> Baby 'Sweet Fragrance' <i>Oncidium Twinkle</i>	5種をそれぞれ丸テーブルに置いて香りを嗅げるコーナーを設置。オンシジウム・シャーリーベイビーの香りが強く、他の香りがあまり感じられなかった。
⑯	葉のないラン	<i>Chilochista lunifera</i> <i>Chilochista parishii</i> <i>Chilochista viridiflora</i> <i>Taeniophyllum glandulosum</i>	手ずりにワイヤーネットを取り付け、板付けしたランを展示。根で光合成を行っていることを解説。
⑰	コブラオーキッド	<i>Bulbophyllum purpureorhachis</i>	開花株を展示。
⑱	ダーウィンのラン	<i>Angraecum sesquipedale</i>	長い距をもつランと世界一長い口吻をもつ蛾との関係を解説。
⑲	魅惑の交配種	<i>Phragmipedium</i> Fritz Schomburg	フラグミペディウム・ベッセイトとフラグミペディウム・コバチーとの交配種。導入したランは蕾の状態であったため、広島洋園倶楽部会員より開花株を借用した。